

にこりんる一むだより 夏号

2022年7月

少しずつですが日常が戻り、子ども達の元気な様子を見かけることが多くなりました。

節電も叫ばれる今年の夏、子どもを自宅のビニールプールで遊ばせたり、密を避けて海や川に出かけたりすることも多いと思います。そんな中で心配なのが、水の事故です。日常生活の中でも水の事故は起きています。危険な場所、予防のポイントを知り、子どもを水の事故から守りましょう。

～子供を水の事故から守ろう～

＜子どもは水遊びが大好き。でもここに注意！＞

乳幼児の不慮の事故で2番目に多いのが「溺水」です。そして「溺水」は短時間で死に至ります。

★夏は様々な場所で水の事故が起きやすくなります

自宅でのプール遊び

少ない水の量でも溺れる危険。
必ず大人が付き添って！



川や海でのレジャー

必ず大人と危険な点を確認し、なるべく靴
やライフジャケットを付けましょう



気をつけて！子どもは静かに溺れます！

溺れる時、バシャバシャともがくイメージがありますが、実際に溺れた時は、静かに沈みます(本能的溺水反応と言います)。そのため、たくさん人のいるプールや、同じ浴室の大人が洗髪中に気がつかないことがあるのです。覚えておきましょう。

★実は、水の事故は室内で1番多く起きている！

入浴中は目を離さないで

大人が洗髪中や、着替えを取りに行ったり、少し目を離している間に溺れてしまうことがあります。

浴室で子どもを絶対に1人にせず、大人の洗髪中は子どもを浴槽から出しましょう。



浴槽の残り湯も注意して

子どもが1人で浴室に入って、浴槽をのぞき込んで転落し、溺れることがあります。入浴後は浴槽の水を抜き、浴室扉には子どもの届かない外鍵を付けるなど、予防しましょう。



洗濯機に落ちる・バケツや洗面器も注意して

洗濯機の蓋は閉めて、足台になる物を近くに置かず、使用後は水を抜いておきましょう。

水が入ったバケツや洗面器などは、子どもの側に放置しないように注意しましょう。



10cmの水位でも溺れる危険！

子どもは頭が重いいため、頭から落ちやすく、自力で体勢を戻すのも難しいため、低い水位でも溺れる危険があります。

「にこりんる一む」とは病気の回復期にあるお子さんのための保育室です。

詳しいご利用内容は、世田谷区 HP「病児・病後児保育利用のご案内」もしくは京王子育てネット子育てステーション烏山「にこりんる一む」をご覧ください。

子育てステーション烏山3F

にこりんる一む

東京都世田谷区南烏山5-17-5

☎03-5384-4601